

八丈島 水産だより

10月号

2014



センニンソウ



足踏み式脱穀機

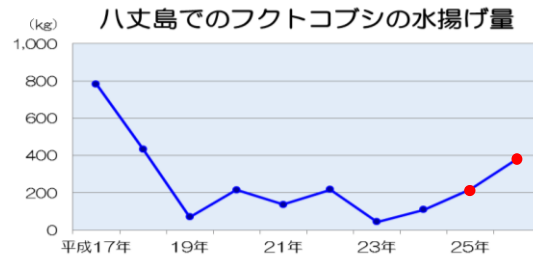
台風がつぎつぎと発生し、日本各地で大雨などによる被害が出ています。農作物が傷ついたり、海が荒れて漁ができないなど、農業や漁業にも被害が出ていて心配されます。

水産だより7月号で田植えのようすをお伝えしましたが、島内の小学5年生の田んぼが収穫の時期を迎え、稲刈りが行われました。鎌を使って稲を刈り取ったあと、脱穀（稲からもみを外すこと）も行いました。機械を使う方法だけではなく、昔ながらの足踏み式脱穀機も体験しました。

■ あぶきが戻ってきた？

あぶき（フクトコブシ）は小型のアワビの仲間で、伊豆諸島の各島で漁獲されています。

八丈島では昔、年間20～40tとたくさん獲れていましたが、最近では100～200kgほどに激減していました。餌となる海藻が少なくなっているためと考えられています。しかし、平成25年、26年とわずかですが、水揚げ量が増えています。原因はよくわかっていませんが、資源が回復してくれることを願います。



フクトコブシ

■ 新しい船客待合所で開催



大盛況の9月の朝市のような

毎月第3土曜日に開催されている八丈島漁協女性部の朝市が、9月20日、神湊港（底土港）に今年7月にオープンした船客待合所に場所を変更して行われました。今回は、会場として利用できるかを確認するための「お試し」での開催です。いつもの会場の底土漁師小屋より広く、天井が高いので、とても開放的な感じとなりました。

雨の降る天気にもかかわらず、たくさんのお客さんが訪れ、島寿司など人気のメニューは、開店後、すぐに売り切れになるほどの大盛況でした。